

地域の子牛の哺育・育成を一括化し、さらに適切な管理方法を普及 ～地域一体となった飼養管理の効率化と高度化～

北海道

酪農

- ・JAが哺育育成センターを整備。地域の酪農家はセンターに育成牛を預託することにより、労働負担の軽減を実現。
- ・地域の酪農家に対して初乳給与などの哺育育成方法についての調査・分析を実施し、哺育飼養マニュアルを作成。哺育育成センターにおける飼養管理レベルの高度化を図るとともに、地域の子牛死廃事故率の低減を目指す。

①地域の現状

- ・一戸当たり飼養頭数の増加により、地域の酪農家における労働力不足が深刻。
- ・管内の子牛事故の大半は下痢が原因
- ・労働力不足により哺育育成に手が回らなくなり、子牛の疾病・死廃事故率の上昇が発生

子牛の世話は大変だし手がかかる。
育成センターに預けて、搾乳に集中したい！

哺育育成に失敗すると、後継牛の数が減ってしまうし、無事に育っても強い牛にならない



組合員

強い子牛を作るためには、初乳給与が大事
自分の給与方法は、大丈夫だろうか？
他の酪農家はどのようにやっているだろうか？

②取組内容・目標

- ・地域に哺育育成センターを整備して子牛の育成を一括化することで、酪農家の労働時間を削減
- ・地域の哺育育成方法を調査、マニュアルを整備することで、地域の子牛事故率の低下を目指す

JA 哺育育成センター(新設)
(預託頭数 約1,300頭規模)

- ・牛舎整備、給餌機械導入等
(施設整備・機械導入事業)
- ・初乳給与について調査・分析、飼養マニュアルの整備(実証支援事業)

目標: 生乳販売額の増加、子牛事故率の低下等
(H30→R7)



③目指す地域の姿

分業による効率化を進めつつ、飼養管理を高度化することで、コストが低減し、地域全体で経営が安定

